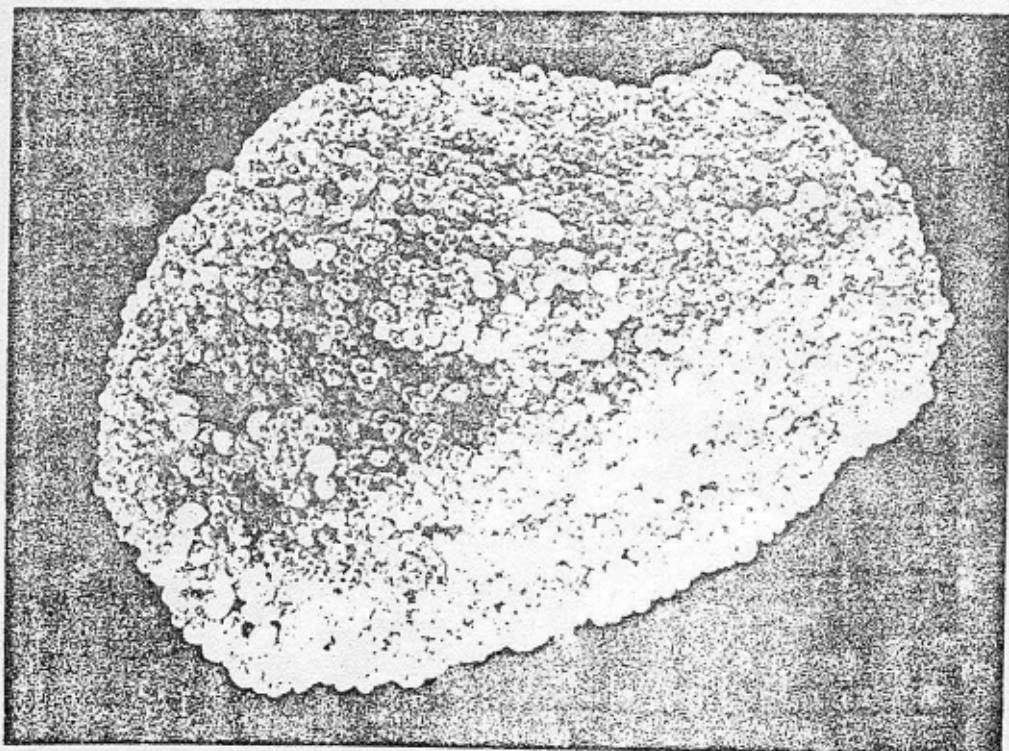


立山温泉の玉滴石

みなさんは、図のような美しくて透明な小粒の集まった石を見たことはありませんか？ これは、鉱物学者榎井欽一氏のコレクションで、立山温泉新湯でとれた玉滴石です。

富山県産出の鉱物にはあまり特筆すべきものはありませんが、これは玉滴石の中で「日本一美しい」と言われています。

玉滴石は水晶（石英）の成分二酸化ケイ素（ SiO_2 ）に水が加わったもので、メノウや玉髄とほぼ同じ成分です。温泉の湯の中に溶けていたこれらの成分が、温度の低下などによって溶けきれなくな



立山温泉の玉滴石 (Introduction to Japanese Mineralsより) ×1.2

り、砂つぶの周りに付着して丸く成長したもののしり。

鉱物学者神保小虎氏は1898年にこの玉滴石を採集に行ったのですが、採集したものはみな濁っていて、美しいものは34年前(1864年)から出ていないと書いています。また、「越中安政大地震見聞録」によると、立山温泉新湯は安政5年(1858年)の大地震の時から温泉になったということです。

立山温泉新湯が温泉になって以降にこの玉滴石ができたならば、1858年から1864年までのわずか数年間に「日本一美しい」玉滴石が天然に造られ、人の手で採集されてしまったことになります。

現在、無色透明で美しい玉滴石はだれの所にあるのか、ほとんど知られていません。神保氏は、玉滴石を採集に行く前に、ひとつひとつの粒がバラバラに離れたものがガラスビンに入れられているものを見ています。それらは現在、どこへ行ってしまったのでしょうか？

私は、それらが県内のどこかにまだあるのではないかと思います。100年近くも続いた家の家宝として、あるいは蔵の片すみにそれと気づかれずに眠っているのではないのでしょうか？

それらの貴重な資料が研究や教育に有効に生かされることを願っています。

(H. A.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和58年5月 / 日発行